



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT 2022年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2022年度

ANNUAL REPORT 2022年度

INDEX

目次

はじめに	
一橋大学イノベーション研究センターについて	i
I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) ブラウンバッグランチセミナー	03
3) 国際シンポジウム等	04
II. 研究員	07
1) 専任研究員	08
2) 兼任研究員	23
3) 外国人研究員（客員）	23
III. 教育活動	25
1) 講義	26
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	32
IV. 研究成果および刊行物	35
1) 一橋ビジネスレビュー	36
2) ワーキングペーパー	41
3) ケーススタディ	42

一橋大学イノベーション研究センターについて

一橋大学イノベーション研究センター（IIR）は、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

このようにIIRは、イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、発明が生まれ、それが産業発展へと実を結ぶまでの長いイノベーションの生成プロセスに対する私たちの理解はいまだ不十分な状況にあります。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。IIRが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

IIRの研究領域には、技術、組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明する「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者個人の特徴を解明する「革新者研究」、企業、大学、個人などの主体間のつながり方がイノベーションに与える影響を解明する「ネットワーク研究」、イノベーションの背後にある歴史的コンテキストを理解し、その発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などがイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる「知識経営研究」、そして、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」があります。

IIRでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4 月	商学研究科の附属研究施設となった

I. 研究活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2022年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/category/forum-list/>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

7月15日	Alex Preda “Bonding Expertise: The Trading Zones of Software Development in FinTech Collaborations” (Professor of Professions, Markets and Technology, King’s College London)
7月20日	LEE Sang-Gun 「デジタル資産取引所の行方は？」 (Professor, Sogang University Business School)
10月26日	Alberto Galasso “Licensing Life-Saving Drugs for Developing Countries: Evidence from the Medicines Patent Pool” (Professor, University of Toronto)
10月31日	峰尾 恵人 「日本林業のイノベーションシステム論分析」 (京都大学化学研究所・バイオマスプロダクトツリー産学共同研究部門 特定研究員)
12月14日	Martin Hemmert “A Conservation of Resources Perspective on Analyzing Founders’ Emotional Support: Performance Implications for East Asian New Ventures” (Professor, Korea University Business School)

2. ブラウンバッグランチセミナー——2022年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究フォーラムに加え、ブラウンバッグランチセミナーを不定期に開催している。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/category/forum-list/>

発表者については学内、学外、院生、教員を問わず、テーマはイノベーションに限定せずに、比較的アリーステージの研究の発表の場を提供し、活発な交流を行っている。

- | | |
|-------|--|
| 4月6日 | カン ビョンウ
“Same Knowledge Input and Same Knowledge Output: A Mechanism of Similar Knowledge Creation”
(一橋大学イノベーション研究センター 准教授) |
| 8月31日 | 吉岡（小林）徹
“Industry Experience and Post-doctoral Academic Performance”
(一橋大学イノベーション研究センター 専任講師) |
| 3月22日 | Rudi Bekkers
“From Open Warfare to Strawman’s Anonymity: Motives and Strategies behind Patent Opposition at EPO”
(Professor, Eindhoven University of Technology) |

3. 国際シンポジウム等

■「IIR Summer School 2022」

Venue: Hitotsubashi University and Zoom Online

Date: August 22-23, 2022

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

August 22

Language: Japanese

Opening:

14:00-14:10: Yaichi AOSHIMA

Session 1: 14:10-15:10 (Chair: Hideto KOIZUMI)

14:10-14:40: 于 冲

「ユーザー・アントレプレナーはどのような特徴を持っているのか？日本のスタートアップ企業からのエビデンス」

14:40-15:10: 新井 秀美

「イノベーションの社会的受容における地方都市における規制緩和に向けた実証実験：電動キックボードの事例」

Session 2: 15:20-16:20 (Chair: Ivar PADRÓN-HERNÁNDEZ)

15:20-15:50: 小宮山 知成

「新産業育成のための構造的両利き経営と競争・協調能力：日本の水素ステーション業界におけるミッション主導のグランドチャレンジ」

15:50-16:20: 久保田 達也

「認知ギャップと技術軌道：光露光方式の予想外の延命を対象とした分析」

Session 3: 16:30-17:45 (Chair: Manabu ETO)

Guest Speaker

16:30-17:30: 原山 優子

「なぜにイノベーション研究？」

17:30-17:45: Q & A

Closing:

17:45-17:50

August 23

Language: English

Session4: 14:30-15:30 (Chair: Byeongwoo KANG)

14:30-15:00: Shotaro YAMAGUCHI

“Science and Engineering Education and Invention in Japan’s Industrialization”

15:00-15:30: Yurong CHEN

“Collective Expectations and Platform Ecosystem Creation”

Session 5: 15:45-16:45 (Chair: Kentaro NAKAJIMA)

15:45-16:15: Takahiro INADA

“When and How Incumbent Firms Should (or Not) Invest in New Technologies?
Formal Model Analysis”

16:15-16:45: Cornelia STORZ

“Academic Scientists and Firm Innovation”

Closing:

16:45-17:00: Masaru KARUBE



II. 研究員

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 専任研究員——2022年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

Fujiwara, Masatoshi and Yaichi Aoshima, *Mechanisms for Long-Term Innovation: Technology and Business Development of Reverse Osmosis Membranes*, Springer Nature Singapore, December 2022, 372 pages

1.2. 論文, 本の1章

南敦・木島絵里子・内田翔太郎・佐藤栄二・澤村慎太郎・森一晃・青島矢一「ビジネス・ケース 旭酒造:『脱』杜氏の酒造りと『獺祭』の海外展開」『一橋ビジネスレビュー』70巻3号, 2022年12月, 114-127頁

吉田聖崇・青島矢一「ビジネス・ケース Akatsuki Ventures: 経営理念の実現を目指したCVC投資」『一橋ビジネスレビュー』71巻1号, 2023年6月, 130-142頁

2. コンファレンス, 学会発表

Aoshima, Yaichi and Tatsuya Kubota, “The Role of Cognitive Frames that Impede and Drive the Technological Evolution,” Proceedings of PICMET '22 Conference, Aug. 2022, refereed



市川 類

■ 履歴

- 1988年 東京大学教養学部基礎科学科第二卒業
- 1990年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了
- 1990年 通商産業省入省
- 1997年 マサチューセッツ工科大学 技術・政策プログラム修士課程修了
- 2001年 経済産業省産業技術環境局 産業技術政策課課長補佐
- 2004年 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）企画調整課長ほか
- 2006年 資源エネルギー庁 新エネルギー等電気利用推進室長
- 2007年 日本貿易振興機構（JETRO）ニューヨークセンター情報技術部長
（情報処理推進機構（IPA）ニューヨーク事務所長）
- 2010年 経済産業省産業技術環境局 産業技術総合研究所室長
- 2011年 長岡技術科学大学 経営・情報系 教授
- 2013年 政策研究大学院大学 科学技術・学術政策プログラム博士課程修了
（博士（政策研究）取得）
- 2013年 内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 内閣参事官
- 2017年 産業技術総合研究所 人工知能研究センター副研究センター長
人工知能研究戦略部長（2018年～）
臨海副都心センター所長（2019年～）
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

市川類「欧州 AI 動向からみる知的対話システムの倫理的リスク」『人工知能学会論文誌』
37巻3号, 2022年5月

https://www.jstage.jst.go.jp/article/tjsai/37/3/37_37-3_IDS-A/_article/-char/ja/

市川類「産業革命としてのカーボンニュートラル革命」『一橋ビジネスレビュー』70巻1号,
2022年6月, 8-23頁

1.2. その他

市川類「ハイクサイクルから読み解く web3の隆盛（前編）」『Web3ビジネス』2023年2月24
日

<https://www.kankyo-business.jp/special/e8f3ad53-da00-4324-bfd9-91cfc5ab5a0>

市川類「web3に対する過度な期待を見極め、成功するには（後編）」『Web3ビジネス』2023
年2月24日

<https://www.kankyo-business.jp/special/ae04271b-1dd8-4075-8bfb-32f9b28c0520>

市川類・実積寿也・羽深宏樹・原山優子・江間有沙「責任ある AI を目指す『GPAI』では何が議論されているのか」『MIT Technology Review』2023年5月10日，（『AI 白書2023』にも、同文記載）

<https://www.technologyreview.jp/s/304668/how-to-put-ai-principles-into-practice-the-role-and-potential-of-gpai>

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

市川類「サステナビリティ経営（SX）とその構造に係る考察：イノベーションの役割とステークホルダー資本主義の未来」IIR ワーキングペーパー WP#22-02，2022年5月

市川類「気候変動問題対応に係るサステナビリティ経営の産業別動向分析」IIR ワーキングペーパー WP#22-03，2022年5月

市川類「Web3に係るハイプの生成メカニズムと今後の修正の方向：イノベーション論から見たハイププロセスに係る新たな理論の構築」IIR ワーキングペーパー WP#22-05，2022年10月

市川類「世界の人工知能（AI）ガバナンス制度の進化メカニズム：技術と制度の共進化の中での地域的多様性による制度イノベーションの進展」IIR ワーキングペーパー WP#23-01，2023年3月

市川類「第四次 AI ブーム（ChatGPT）による世界の AI ガバナンス制度の進化：ChatGPT 型 AI システムの社会的リスクと世界の AI 規制・ガバナンス政策の動向」IIR ワーキングペーパー WP#23-02，2023年5月

3. コンファレンス，学会発表

市川類「GPAI の概要と実態」AI 法学会，2022年4月27日，オンライン

市川類「東京農工大学 OPERA が示す事業化戦略と拓がる可能性」東京農工大学第二回命をつなぐ技術コンソーシアムシンポジウム，2022年9月30日，東京農工大（小金井キャンパス）

入谷京・市川類・江藤学「学内開発装置による新しい検出技術の市場創出に向けた普及戦略の検討」研究・イノベーション学会 第37回年次学術大会，2022年10月29日，オンライン

市川類「Web3におけるハイプとイノベーションの社会メカニズム」研究・イノベーション学会 第37回年次学術大会，2022年10月30日，オンライン



イバ パドロン=エルナンデス

■ 履歴

- 2010年 ヨーテボリ大学商・経済・法学部 国際ビジネス専攻 卒業 (B. Sc. 取得)
- 2011年 日欧産業協力センター研修員 (～2011年9月)
- 2012年 ヨーテボリ大学大学院経営管理研究科 国際ビジネス・貿易専攻 卒業 (M. Sc. 取得)
- 2017年～ スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 連携研究員
- 2018年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (欧米短期) (～2019年1月)
- 2018年～ スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 日本事務所所長
- 2019年 スtockホルム商科大学大学院マーケティング・戦略研究科 Ph. D. (国際ビジネス)
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. 論文, 本の1章

- Padrón-Hernández, Ivar and Patrick Regnér, “Tomra's Institutional Challenges,” in Whittington, Richard, Duncan Angwin, Patrick Regnér, Gerry Johnson and Kevan Scholes, eds., *Exploring Strategy: Text & Cases*, London: Pearson, May 2023, pp. 324-327
- Delios, A., Clemente, E., Wu, T., Tan, H., Wang, Y., Gordon, M., Viganola, D., Chen, Z., Dreber, A., Johannesson, M., Pfeiffer, T., Generalizability Tests Forecasting Collaboration, and Uhlmann, E.L. (2022). Examining the generalizability of research findings from archival data. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 119 (30): e212037711. (Member of Generalizability Tests Forecasting Collaboration)

2. コンファレンス, 学会発表

- Padrón-Hernández, Ivar, “Disaster Reactions of Self-initiated and Organizational Expatriates,” 2nd International Conference on Self-Initiated Expatriation, hosted by Global Mobility of Employees (GLOMO), April 12, 2022, online
- Walravens, Tine and Ivar Padrón-Hernández, “The EU-Japan Economic Partnership Agreement in Japanese Print Media: A ‘Cars-for-Cheese-Deal’ or ‘the Black Ships of European Cheese’?,” Conference of the Nordic Association for the Study of Contemporary Japanese Society (NAJS), May 12, 2022, University of Oslo, Oslo, Norway
- Padrón-Hernández, Ivar, “When Murder King Sells Vegan Burgers: Institutional Maintenance and Change in Fast Food,” Annual Meeting of the Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE), July 11, 2022, the University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands
- Padrón-Hernández, Ivar and Tine Walravens, “The EU-Japan Economic Partnership Agreement in Japanese Print Media: A ‘Cars-for-Cheese-Deal’ or ‘the Black Ships of European Cheese’?,” Annual Meeting of the Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE), July 11, 2022, the University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands

- Padrón-Hernández, Ivar, “Reactions of Self-initiated and Organizational Expatriates to Sudden and Prolonged External Threat,” the 38th Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA) Annual Conference, October 29, 2022, Keio University Faculty of Business and Commerce, Mita Campus, Tokyo
- He, Geer and Ivar Padrón-Hernández, “Home Country Influence in Cross-border M&As: A Systematic Review Focusing on Emerging Market Acquirers,” the 38th Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA) Annual Conference, October 29, 2022, Keio University Faculty of Business and Commerce, Mita Campus, Tokyo
- Padrón-Hernández, Ivar, “Reactions of Self-initiated and Organizational Expatriates to Sudden and Prolonged External Threat,” the 48th European International Business Academy (EIBA) Annual Conference 2022, December 9, 2022, BI Norwegian Business School, Campus Oslo, Oslo, Norway
- He, Geer and Ivar Padrón-Hernández, “Home Country Influence in Cross-border M&As: A Systematic Review Focusing on Emerging Market Acquirers,” the 48th European International Business Academy (EIBA) Annual Conference 2022, December 10, 2022, BI Norwegian Business School, Campus Oslo, Oslo, Norway
- Padrón-Hernández, Ivar, “Reactions of Self-initiated and Organizational Expatriates to Sudden and Prolonged External Threat,” Asia Pacific Journal of Management Paper Development Workshop, Asia Academy of Management (AAOM), 28 February, 2023, Tokyo, Japan



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授
- 2016年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

江藤学「新しい時代における柔らかい標準」『知財管理』（日本知的財産協会会誌広報委員会編）72巻12号，2022年12月，1437-1447頁

1.2. その他

江藤学「ビジネスが変わる・標準が変わる (1)-(6)」『アイソス』（システム規格社（編）），27巻10-12号，28巻1-3号，2022年10月～2023年3月

2. コンファレンス, 学会発表

入谷京・市川類・江藤学「学内開発装置による新しい検出技術の市場創出に向けた普及戦略の検討」研究・イノベーション学会 第37回年次学術大会，2022年10月29日，オンライン



大山 睦

■ 履歴

- 1997年 横浜市立大学商学部卒業
- 1999年 慶應義塾大学 修士（経済学）
- 2002年 シカゴ大学 修士（経済学）
- 2008年 ニューヨーク州立大学バッファロー校 Ph.D.（経済学）
- 2008年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 IGB ポスドク研究員
- 2009年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校マネジメント学部講師
- 2010年 北海道大学経済学研究科准教授
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年4月 メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクール 客員研究員
(～2018年3月)
- 2022年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

大山睦「構造化されたマネジメントの役割：生産性、取引関係、テレワーク」『現代経済学の潮流 2022』東京大学出版会，2023年

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

Ohyama, Atsushi and Ryo Kambayashi, “Telework, Management, and Technology,” ESRI Discussion Paper Series, No. 375, 内閣府経済社会総合研究所，2023年4月

3. コンファレンス, 学会発表

大山睦「特別報告3 構造化されたマネジメントの役割：生産性、取引関係、テレワーク」日本経済学会2022年度秋季大会，2022年10月15日，慶應義塾大学，招待有り

Ohyama, Atsushi, “Management Practices and Transactional Relationships,” Empirical Management Conference, December 15, 2022, Washington D.C., USA, refereed



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文，本の1章

- 橘樹・内田大輔・軽部大「ビジネスケース：日本環境設計 服から服へ、資源が循環する持続可能なエコシステムの創造」『一橋ビジネスレビュー』70巻1号，2022年6月，126-138頁
- 内田大輔・芦澤美智子・軽部大「アクセラレーターによるスタートアップの育成：日本のアクセラレータープログラムに関する実証分析」『日本経営学会誌』第50号，2022年7月，59-72頁，査読有り
- 橘樹・軽部大・内田大輔「創業者はどこから来るのか：1999年から2019年の日本におけるIPO企業の創業者の実態調査」『Venture Review』（日本ベンチャー学会（編）），Vol. 40，2022年10月，113-118頁，査読有り
- 橘樹・軽部大・内田大輔「新興企業における非創業者の関与と役割：役員経歴データに基づく非創業者の実態調査」『Venture Review』（日本ベンチャー学会（編）），Vol. 41，2023年3月，89-94頁，査読有り
- 軽部大・橘樹・宮澤優輝・アヴィマニュ=ダッタ「ビジネス・ケース セイコーエプソン：革新的腕時計「スプリングドライブ」はいかに開発・事業化されたか」『一橋ビジネスレビュー』70巻4号，2023年3月，114-131頁
- 軽部大・宮澤優輝・橘樹・原泰史・工藤（原）由佳「文献サーベイ：カテゴリー形成過程としての革新現象」『一橋商学論叢』18巻1号，2023年5月，41-54頁

2. コンファレンス, 学会発表

Yu, Lei, Masaru Karube and Daisuke Uchida, “Opening the Black Box of the Strategy-to-Execution Gap: How Do TMT Characteristics and Government Involvement Matter?,” Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE) 34th Annual Meeting, July 11, 2022, University of Amsterdam, Amsterdam, the Netherlands

Karube, Masaru, Ryuji Nitta, Tatsuki Tachibana and Avimanyu Datta, “How Does Civic Engagement Create a New Market for People with Disabilities?: A Case of Accessible Design Products and Services in Japan,” the 38th Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA) Annual Conference, October 29, 2022, Keio University, Faculty of Business and Commerce

橘樹・軽部大・内田大輔「戦略計画と企業成長：新規上場企業の調達資金使途に関する実証分析」日本ビジネスモデル学会 2022年度秋季大会, 2022年12月4日, 早稲田大学

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Tatsuki Tachibana and Yuki Miyazawa, “Grand Seiko's ‘Spring Drive’: A Blend of Tradition and Modernity,” International Workshop on Craft and New Forms of Organizing, 2023 年 4 月 21 日, 京都大学, 招待有り

Karube, Masaru, Avimanyu Datta and Tatsuki Tachibana, “Connecting Dots between Generations: How the Revolutionary Wristwatch ‘Spring Drive’ Was Developed and Commercialized,” the 39th EGOS Colloquium 2023, 6-8 July, 2023, University Cagliari, Cagliari, Italy

Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Tatsuki Tachibana and Yuki Miyazawa, “Connecting Dots between Generations: How the Revolutionary Wristwatch ‘Spring Drive’ Was Developed and Commercialized,” 2023 Strategic Management Society Annual Meeting, September 30-October 3, 2023, Sheraton Centre, Toronto, Canada



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

강병우「통계와 현장에서 보는 일본 대학의 현실 (On Japanese Universities)」, 박영사, 2022 年, 140 頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Kang, Byeongwoo and Rudi Bekkers, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” IIR Working Paper, WP#22-06, November 2022

3. コンファレンス, 学会発表

Kang, Byeongwoo, “Local Industry Influence on Commercialization of University Research by University Startups,” (韓国) 企業とイノベーション研究会, 2022 年 10 月 25 日, ソウル, 韓国

Kang, Byeongwoo and Rudi Bekkers, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” Asia Pacific Innovation Conference 2022, 28-29 October, 2022, Incheon, Korea

Kang, Byeongwoo and Rudi Bekkers, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors,” 9th ZEW/MACCI Conference on the Economics of Innovation and Patenting, 3-4 November, 2022, Mannheim, Germany

カン・ビョンウ「標準必須特許に関する研究活動のレビューと今後の課題」日本知財学会第20回年次学術研究発表会, 2022年11月5日, オンライン

Kim, Byeongsik, and Byeongwoo Kang, “K-pop’s Product Adaptation for International Success: Theoretical Perspectives,” Asia Pacific Business Review Special Issue Workshop, January 17, 2023, Seoul, Korea



小泉 秀人

■ 履歴

- 2011年 アメリカ創価大学教養学部卒業
- 2012年 エール大学経済学部修士課程修了 修士（国際開発経済学）
- 2012年 イノベーション・フォー・パブリックアクション 研究員（～2013年）
- 2013年 世界銀行短期コンサルタント（～2014年）
- 2020年 ペンシルベニア大学ウォートン校応用学部博士後期課程修了
Ph.D.（応用経済学）
- 2020年 一橋大学イノベーション研究センター特任助教
- 2021年～ 一橋大学イノベーション研究センター特任講師
- 2022年～（独）経済産業研究所 研究員（政策エコノミスト）

■ 研究業績

1. 未出版物

1.1. ワーキングペーパー

Koizumi, Hideto, “Cascades of Tax Policy through Production Networks: Evidence from Japan,”
2022

Koizumi, Hideto, “Spring Forward and Fall Back in Health: Effects of Daylight Savings Time on
Myocardial Infarction,” with Shinsuke Tanaka, July 2022,
<https://hidetokoizumi.github.io/papers/DST.pdf>

Koizumi, Hideto, “Risk Attitudes of Politicians: Evidence from Political Scandals in Japan,” with Jun
Goto, 2022

Koizumi, Hideto, “Minimum Wage Redistribution Revisited,” with Kent Smetters, 2022

2. コンファレンス, 学会発表

Koizumi, Hideto, “Cascades of Tax Policy through Production Networks: Evidence from Japan,”
International Economic Development Program Seminar, July 12, 2022, Hiroshima University



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

- 中島賢太郎「戦後復興・高度成長と鉄道」『運輸と経済』（（一財）交通経済研究所（編）），
2022年10号，44-48頁
- 中島賢太郎「国土整備とイノベーション」『地域開発』（（一財）日本地域開発センター（編））
Vol. 644, 2023年2月，20-23頁

1.2. その他

- 中島賢太郎「リニア中央新幹線と中部圏経済」『中部圏研究』（（公財）中部圏社会経済研究所（編）），219号，2022年6月，66-73頁
- 中島賢太郎・手島健介・山崎潤一「歩いて学ぶ都市経済学 (1) - (7)」『web 日本評論』日本評論社，2022年10月～2023年4月

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, ケーススタディ

- Miyauchi, Yuhei, Kentaro Nakajima and Stephen J. Redding, “The Economics of Spatial Mobility: Theory and Evidence Using Smartphone Data,” NBER Working Paper, No. 28497, Revised in April 2022
- Yamaguchi, Shotaro, Hiroyasu Inoue, Kentaro Nakajima, Tetsuji Okazaki, Yukiko Umeno Saito and Serguey Braguinsky, “Invention by College Graduates in Science and Engineering during Japan's Industrialization,” RIETI Discussion Paper Series, 22-E-104, November 2022
- Go, Eugenia, Kentaro Nakajima, Yasuyuki Sawada and Kiyoshi Taniguchi, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” CIRJE Discussion Paper Series, CIRJE-F-1209, January 2023
- Yamasaki, Junichi, Kentaro Nakajima and Kensuke Teshima, “From Samurai to Skyscrapers: How Transaction Costs Shape Tokyo,” TDB-CAREE Discussion Paper Series, No. E-2020-02, Revised in February 2023

3. コンファレンス, 学会発表

Go, Eugenia, Kentaro Nakajima, Yasuyuki Sawada and Kiyoshi Taniguchi, “On the Use of Satellite-Based Vehicle Flows Data to Assess Local Economic Activity: The Case of Philippine Cities,” the 16th North American Meeting of the Urban Economics Association, September 30, 2022, World Bank, Washington D.C., U.S.

Nakajima, Kentaro, “The Role of Face-to-face Contact in Innovation: The Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” 応用地域学会年次大会, 山梨大学, 2022年12月17日・18日

Go, Eugenia, Kentaro Nakajima, Yasuyuki Sawada and Kiyoshi Taniguchi, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” the 12th European Meeting of the Urban Economics Association, May 6, 2023, Bocconi University, Milan, Italy

Nakajima, Kentaro, “The Role of Face-to-face Contact in Innovation: The Evidence from the Spanish Flu Pandemic in Japan,” 関西労働研究会, 2023年5月26日, アジア太平洋研究所, 招待有り

Nakajima, Kentaro, “Geography of Business Interactions: Evidence from Business Card Exchange Data,” 都市経済ワークショップ, 2023年6月23日, 東京大学, 招待有り



吉岡（小林） 徹

■ 履 歴

- 2005年 大阪大学法学部法学科卒業
- 2007年 大阪大学大学院法学研究科 法学・政治学専攻 博士前期課程修了
修士（法学・政治学）
- 2007年 株式会社三菱総合研究所研究員（～2012年）
- 2009年 東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員（非常勤，～2012年）
- 2013年 東京大学政策ビジョン研究センター研究補佐員（非常勤，～2014年）
- 2014年 日本学術振興会特別研究員（DC2）
- 2015年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了
博士（工学）
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2016年）
- 2015年 東京大学公共政策大学院特任講師（非常勤，～2016年）
- 2016年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任助教（～2019年）
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2019年）
- 2019年～ 一橋大学イノベーション研究センター専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文，本の1章

- 吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（6）：イノベーションの普及のための定石」『一橋ビジネスレビュー』70巻1号，2022年6月，96-103頁
- 吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（7）：プラットフォームエコシステム戦略」『一橋ビジネスレビュー』70巻2号，2022年9月，104-111頁
- 吉岡（小林）徹「研究開発における組織内・組織間関係：特許データによる貢献と限界、留意点」『組織論レビューIV』（組織学会（編）），2022年9月，207-231頁，査読有り
- Yoshioka-Kobayashi, Tohru and Sotaro Shibayama, “Determinants of Ph.D. Progression: Student's Abilities and Lab Local Environment,” *Higher Education*, published online: 29 September, 2022, refereed
- 吉岡（小林）徹「秘密特許制度の実証分析からの知見」『CISTEC journal』（安全保障貿易情報センター（編）），202号，2022年11月，300-310頁
- 吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（8）：知的財産権マネジメント：イノベーションの盾と糊」『一橋ビジネスレビュー』70巻3号，2022年12月，96-104頁
- 吉岡（小林）徹「ビジネス・ケース アールシーコア：個性的な『暮らし』を届ける BESS の家」『一橋ビジネスレビュー』70巻3号，2022年12月，128-140頁
- 吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（9）：産学連携のマネジメント」『一橋ビジネスレビュー』70巻4号，2023年3月，142-150頁

井上由里子・佐々木通孝・吉岡（小林）徹「不正競争防止法における『混同のおそれ』の規定要因」『法社会学の最前線』（日本法社会学会（編）），有斐閣，2023年5月，299-317頁

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（10）：イノベーションから収益を得る組織的基盤」『一橋ビジネスレビュー』71巻1号，2023年6月，100-107頁

3. コンファレンス，学会発表

吉岡（小林）徹「米国の秘密特許制度の実証分析からの知見」日本知財学会 2022年度春季シンポジウム，2022年7月4日，オンライン，招待有り

吉岡（小林）徹「米国の秘密特許制度の実証分析からの知見」第34回 日本安全保障貿易学会研究大会，2022年9月11日，オンライン，招待有り

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, Sotaro Shibayama and Mari Kawamura, “Industry Experience and Post-doctoral Academic Performance,” Asia Pacific Innovation Conference 2022, October 29, 2022, Inha University, Incheon, Korea

吉岡（小林）徹・柴山創太郎・川村真理「特許生産性の高い博士課程修了者の特徴に関する実証分析」日本知財学会 第20回年次学術研究発表会，2022年11月6日，オンライン

2. 兼任研究員——2022年度

■ 岡室 博之

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 飯屋 広郷

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 神林 龍

一橋大学経済研究所 教授

■ 楠木 建

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

3. 外国人研究員（客員）——2022年度

■ トゥーッカ・トイボネン Tuukka TOIVONEN

研究テーマ「Hybrid Creativity and Innovation at the Intersection of the Arts, Science, Nature and Business」

2022年4月1日 ～ 2022年5月31日

■ アヴィマニュ・ダッタ Avimanyu DATTA

研究テーマ「(1) Roles of Narrative Transformation for Innovation / (2) Corporate Entrepreneurship in Japan」

2022年5月1日 ～ 2022年7月31日



Ⅲ. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2022年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」 秋冬学期 2 単位

軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」 春夏学期 2 単位

中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。

「知的財産特論」 春夏学期 2 単位

江藤学、市川類

特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「先端科学技術とイノベーション」 秋冬学期 2 単位

青島矢一、大山睦、吉岡（小林）徹

経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会学者であつても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度」 秋冬学期 2 単位

江藤学、市川類

政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位

青島矢一、江藤学、中島賢太郎、大山睦

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身に着ける。

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位 青島矢一、江藤学、吉岡（小林）徹

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身につけることを目的とする。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期2単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「技術戦略特論」秋冬学期2単位

青島矢一、吉岡（小林）徹

技術的なイノベーションを中心とする、イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションの特質、イノベーションのパターン、イノベーションの創出、そして、イノベーションと競争との関係性を主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、企業の競争や産業の構造にどのような影響をおよぼすのか、などの問題を検討する。これらの問題を扱っている主として海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「アントレプレナーシップ特論」春夏学期2単位

カン・ビョンウ

アントレプレナーシップ研究の論文を精読する。毎年アントレプレナーシップ研究の中である特定テーマに焦点を当て、関連する論文を読む。同テーマに関する議論の流れを把握と共に実証分析方法について学ぶことを目的とする。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位

青島矢一、江藤学

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位

青島矢一、江藤学

「研究領域演習（イノベーション）」通年6単位

中島賢太郎

「研究領域副演習（イノベーション）」通年4単位

中島賢太郎

「演習／演習 (Ph.D)」 通年 6 単位

青島矢一、市川類、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、
イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

「副演習／副演習 (Ph.D)」 通年 4 単位

青島矢一、市川類、江藤学、大山睦、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、
イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

2. MBA コース

「経営組織」経営分析プログラム，秋冬学期 2 単位

「経営組織」経営管理プログラム，秋冬学期 2 単位

青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことである。そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス」経営分析プログラム，秋冬学期 2 単位

大山睦

経済学を用いてデータ分析を行う手法を学び、統計ソフトの R を使って自らデータ分析ができるようになることを目指す。また、消費者行動、ゲーム理論、寡占における競争理論に関する基礎的な知識も学んでいく。

「Advanced Course in Management (MBA)」経営分析プログラム，春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「ワークショップ：経営 A」経営分析プログラム，通年 6 単位

軽部大

「導入ワークショップ A」春夏学期 2 単位

軽部大

「基礎ワークショップ A」秋冬学期 2 単位

軽部大

3. HSEP（一橋シニアエグゼクティブ・プログラム）

第23クール

青島矢一：

セッション2：「戦略思考レクチャー」2022年10月28日

セッション3：「戦略失敗についての自社ケース」2022年12月15日

セッション3：「戦略的失敗ケースの振り返り」2022年12月16日

セッション5：「私の経営者研究④」2023年3月3日

第24クール

青島矢一：

セッション5：「私の経営者研究④」2023年3月10日

4. EPSON（エプソン経営リーダー育成プログラム）

第3クール

江藤学：

「技術戦略・イノベーション論」2022年10月20日

第3クール

青島矢一：

「技術戦略・イノベーション論」2022年10月21日

5. HFLP（一橋大学財務リーダーシップ・プログラム）

青島矢一：

B コース 第7セッション：「経営戦略論」2023年2月3日

■ 商学部の講義

「イノベーション・マネジメント」春学期 2 単位 吉岡（小林）徹

イノベーションは個人、組織、社会が絡み合う複雑な現象であり、未解明の法則も多々ある。そこで本授業では、イノベーションという現象を複数の焦点（個人、チーム、組織、地域、国）と学術的な視座（組織論、マーケティング論、戦略論、社会学、経済学）を切り替えて多角的に見ていくこと、そして、障壁の原因について自らで仮説を作り検証をしていくことを重視する。これらの多角的な見方と仮説検証の力を身に付け、産業界や社会活動、行政、学術それぞれの世界で応用可能な次の能力を得ることを到達目標とする。

「イノベーション経済特論」春夏学期 2 単位 中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。

「イノベーション経営特論」秋冬学期 2 単位 軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている（あるいは進めたいと考える）研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅰ」秋学期 2 単位 大山睦

ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の経済問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、製品差別化戦略、情報の非対称性、イノベーションである。

「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅱ」冬学期 2 単位 中島賢太郎

統計的データ分析の理論、方法論の基礎についての講義および統計パッケージソフトによる実習を通じて、受講者が自分でビジネスエコノミクスに関する統計的データ分析が行えるようになることを目的とする。

「経済・経営指標入門」集中講義（冬Ⅰ） 2 単位 大山睦（共同講義）

会計・財務・経済ならびに経営事象に関する定量的指標を取り上げて、その基本的な考え方や見方を学び、2年次以降により発展的な内容を学習していく際の基盤を形成することを主たる目的としている。

「デザイン思考とデザイン経営」春夏学期 2 単位 吉岡（小林）徹

「デザイン思考」と「デザイン経営」の「なぜ」を理解することに主眼を置き、その実践例や実践手法について考えていくための、理論的な手がかりと、考える素材を提供する。

「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」 春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「Interactive Course on Business Basics (Management)」 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

Management is a broad topic that includes several different activities. In this course, we will cover what companies do, how they compete against each other, and the relationship between companies and the societies where they exist. The course focuses mostly on questions of strategy and organization, rather than issues or activities related to leadership, psychology, operations management, finance or accounting. Another characteristic of the course contents is that it often highlights things from an international perspective, considering the increasing role of globalization and students' future careers.

「Advanced Course in Management」 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅰ」 春夏学期 2 単位

大山睦、吉岡（小林）徹、カン・ビョンウ

「前期ゼミナール（英書講読）Ⅱ」 秋冬学期 2 単位

青島矢一、吉岡（小林）徹、カン・ビョンウ

「導入ゼミナールⅠ」 春夏学期 2 単位

大山睦

「導入ゼミナールⅡ」 秋冬学期 2 単位

大山睦

「主ゼミナール（4年）」 通年 4 単位 青島矢一、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「主ゼミナール（3年）」 通年 4 単位 軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール（4年）」 通年 4 単位 青島矢一、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール（3年）」 通年 4 単位 軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「3年次ワークショップⅠ」 春夏学期 2 単位 吉岡（小林）徹（共同講義）

「3年次ワークショップⅡ」 秋冬学期 2 単位 吉岡（小林）徹（共同講義）

2. イノベーションマネジメント・政策プログラム——2022年度

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム（Innovation Management and Policy Program：IMPP）は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材を養成することを目的とした、博士レベルのサーティフィケートプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点事業（領域開拓拠点）による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士課程に所属する学生その他、他大学の博士課程の学生、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）などが参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜開講の必修科目と土曜日開講のイノベーションリサーチセミナー、平日開講の選択必修科目、その他特別講義などで構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」、「選択必修科目」の合計14単位の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2022年度在学生 24名（過年度生含む）

	2021 年度入学	2022 年度入学
社会人学生	5 名	4 名
一橋大学博士後期課程学生	4 名（4 名）	2 名（2 名）
その他（再入学者含む）	0 名	0 名

（）内は経営管理研究科の学生

■ 2022年度 of 主な成果

6 月 4 日から 6 月 5 日	【2022 年度組織学会・研究発表大会】 学会発表：学生 3 名 会場：オンライン
8 月 22 日から 8 月 23 日	【IIR サマースクール 2022】 会場：イノベーション研究センター
9 月 2 日から 9 月 4 日	【SciREX サマーキャンプ 2022】 参加：学生 6 名 会場：政策研究大学院大学
10 月 28 日から 10 月 29 日	【Asia Pacific Innovation Conference 2022】 学会発表：学生 1 名 会場：韓国 仁荷大学

10月29日から 10月30日	【研究・イノベーション学会 第37回年次学術大会】 学会発表：学生1名 会場：オンライン
12月4日	【日本ビジネスモデル学会 秋季大会】 学会発表：学生3名 会場：オンライン

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／吉岡(小林)徹
科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、
定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学／中島賢太郎／大山睦
科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、
メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位 青島矢一／大山睦／吉岡(小林)徹
社会学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義
を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位 青島矢一／江藤学
関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目 ※経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ-1.参照）

「知的財産特論」春夏学期2単位 江藤学／市川類

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位 中島賢太郎

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位 軽部大

「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位 江藤学／市川類

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 一橋ビジネスレビュー——2022年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。

■ 編集顧問

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター研究統括／サイバーダイナミクス株式会社代表取締役社長／CEO）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 市川類 江藤学 大山睦 加賀谷哲之 加藤俊彦 軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 小泉秀人 島貫智行 中島賢太郎 中野誠 沼上幹 野間幹晴 パドロニ＝エルナンデス・イバ 藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 吉岡（小林）徹 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽茂（早稲田大学） 生稲史彦（中央大学） 糸久正人（法政大学） 金井壽宏（立命館大学） 栗木契（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学） 清水勝彦（慶應義塾大学） 清水洋（早稲田大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石彰（学習院大学） 長岡貞男（東京経済大学） 楡井誠（東京大学） 延岡健太郎（大阪大学） 藤本隆宏（早稲田大学） 守島基博（学習院大学） 米山茂美（学習院大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） M. Kenney（カリフォルニア大学デービス校 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国） 徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第70巻1号 2022年6月

○特集「カーボンニュートラル革命—日本型エネルギーシステムの構築に向けて」

世界は、カーボンニュートラル革命の時代に突入した。パリ協定の採択、IPCC 報告書の発表以降のカーボンニュートラルの実現は、いまや世界共通の政策課題となっている。カーボンニュートラルの実現は、産業革命以降すべての産業の基盤となっている化石燃料中心のエネルギーおよび電力システムの抜本的な改革を求めるものであり、産業界においては、イノベーションの推進を含めた抜本的な事業・経営の改革が求められている。また、世界各国も、産業政策的な観点

も含めて、その政策の推進を競い合っている。本特集では、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みに関して、政策の動向、各産業における変革の方向性など、さまざまな観点から議論する。

○特集論文

市川類「産業革命としてのカーボンニュートラル革命」

橘川武郎「日本型カーボンニュートラルへの道」

朝野賢司「なぜカーボンニュートラルの実現が『野心的』といえるのか：S + 3E の再考」

大聖泰弘「カーボンニュートラルに向けた自動車技術と関連政策」

河原圭「カーボンニュートラルをめぐる動向とカギとなる CO₂ 関連技術」

○連載

吉田満梨「エフェクチュエーションによる新市場創造（1）：市場機会が創造される3つのパターンと2つの論理」

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（6）：イノベーションの普及のための定石」

福井啓介「産業変革の起業家たち（11）：大企業からシリアルアントレプレナーへ：時代の変わり目を楽しみ尽くす」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○私のこの一冊

一小路武安「道徳的経営の実現にあたって：渋沢栄一『論語と算盤』」

○特別寄稿

小川進「新しい消費者参加型の製品開発：ソーシャルメディアのオピニオンリーダーとの共創」

○ビジネス・ケース

橘樹／内田大輔／軽部大「日本環境設計：服から服へ、資源が循環する持続可能なエコシステムの創造」

鈴木智子／今岡植「ヤマトグループ：標準化とオープン化による物流改革への挑戦」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／市川類

奥田久栄（株式会社 JERA 取締役副社長執行役員）

「日本発の発電技術とソリューションで世界のエネルギー問題に挑む」



■『一橋ビジネスレビュー』 第70巻2号 2022年9月

○特集「観光業の危機対応力—コロナ禍の教訓と復活への戦略」

新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、日本の観光業は深刻な打撃を受けた。右肩上がりで増え続けていた訪日外国人観光客が途絶えてインバウンド需要が消失しただけでなく、国内の旅行需要までもが激減してしまった。この激しい環境変化に直面した業界各社は、いったいどのような創造的対応策を講じて、危機を乗り越えようとしているのだろうか。危機のさなかにある観光業の分析を通じて、急速な環境変化に対する企業や地域の創造的対応力を考える。

○特集論文

山内弘隆／宮崎俊哉「観光を広げることで新生する『観光産業』」

澤田竜次「アフターコロナに向けてホテル事業者が取るべき創造的対応策」

上原渉／鎌田裕美／福地宏之「国内ホテル事業者の危機対応」

加納史子「コロナ危機における国民の観光意識の国際比較：日本とイタリアの場合」

鎌田裕美／上原渉「コロナ禍での観光客の受け入れ：観光地の住民態度」

村木智裕／三井晃子「観光業の再興と今後の成長に欠かせない観光地の需要創造」

○連載

吉田満梨「エフェクチュエーションによる新市場創造（2）：新しい製品・サービスの開発を通じた市場機会の創造」

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（7）：プラットフォームエコシステム戦略」

高橋伸彰「産業変革の起業家たち（12）：社会を良くしたい人たちに必要な資金が回る仕組みをつくる」
インタビューー 青島矢一／藤原雅俊

○私のこの一冊

加藤敬太「未知の世界に飛び込む心得：塚田努『だから山谷はやめられねえ—「僕」が日雇い労働者だった180日』」

○ビジネス・ケース

何 格尔／福地宏之「ラオックス：観光立国下での創造的戦略転換と戦略アジリティー」

丸山峻／島貫智行「東京海上日動システムズ：障害者社員の定着を促進する2つの人材活用アプローチ」

○マネジメント・フォーラム インタビューアー 米倉誠一郎／藤原雅俊

星野佳路（株式会社星野リゾート代表）

「コンセプトを示し、優先順位を組み替えて、危機を突破する」

○エッセイ

野中郁次郎「『二項動態経営』を考える」



■『一橋ビジネスレビュー』 第70巻3号 2022年12月

○特集「デザインとは何か?——経営とイノベーションの本質に迫る」

デザインが経営を、社会を変える。そのような実例が複数見られているが、デザインを経営に取り込むことは容易ではない。なぜか。要因の1つは、デザインの定義が曖昧で、人によってさまざまに捉えられているところにあるのではない。現代においてデザインは何を指しており、そこから浮かび上がる経営、そして、イノベーション創出へのヒントは何なのか。本特集では、日本を代表するデザイン実務家をはじめ、多様な分野・領域の専門家にデザイン観を問い、共通点と差異点、そして、経営への示唆をあぶり出す。

○特集論文

永井一史「デザインの本質：石器時代と『デザイン経営』をつなぐもの」

山中俊治「デザインの垣根：今と昔」

森永泰史「網膜のデザインと観念のデザイン：私論『デザイン経営の読み解き方』」

柴田文江「プロダクトデザイナーから見たデザイン」

外山雅暁「行政におけるデザイン思考の活用：特許庁『デザイン経営』の取り組みより」

木見田康治「製造業におけるサービスデザインとマネジメント」

古江奈々美「デザインの普及と進化するマーケティング」

○連載

吉田満梨「エフェクチュエーションによる新市場創造 (3)：『起業家による機会の認識』を通じた市場機会の創造」

吉岡 (小林) 徹「イノベーションマネジメントの定石 (8)：知的財産権マネジメント—イノベーションの盾と糊」

八坂哲雄「産業変革の起業家たち (13)：衛星打ち上げで終わらない宇宙開発への尽きない思い」
インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○私のこの一冊

酒井健「小さな勇気の灯を胸に：江川紹子『勇気ってなんだろう』」

○ビジネス・ケース

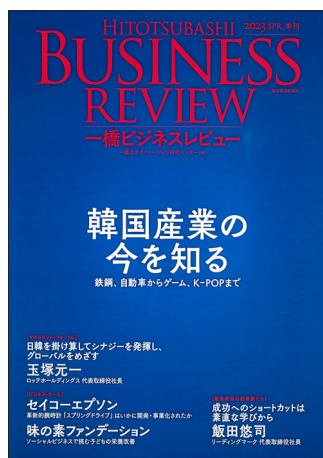
南敦／木島絵里子／内田翔太郎／佐藤栄二／澤村慎太郎／森一晃／青島矢一「旭酒造：『脱』杜氏の酒造りと『癪祭』の海外展開」

秋池篤／吉岡 (小林) 徹／村山貴俊「アールシーコア：個性的な『暮らし』を届ける BESS の家」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／吉岡 (小林) 徹

田中一雄 (株式会社 GK デザイン機構 代表取締役社長 CEO)

「デザインはより良い世界をつくるためのムーブメント」



■『一橋ビジネスレビュー』 第70巻4号 2023年3月

○特集「韓国産業の今を知る—鉄鋼、自動車からゲーム、K-POP まで」

ここ数年、韓国の話題が日本の新聞のヘッドラインを飾ることが増えた。なかでも韓国経済に関しては日頃から情報に触れる機会が多く、よくわかっているようで実は深く知らなかったり、時には誤認されていたりすることが多々ある。春号では、そんな韓国経済を知るために、主軸となる産業を各分野の専門家に紹介してもらおう。具体的には、日本でもよく話題になる半導体産業、鉄鋼産業、自動車・造船産業から、近年特に注目を浴びるようになった IT・ゲーム産業、エンターテインメント産業、エネルギー産業までを対象とする。

○特集論文

吉岡英美「韓国半導体産業の発展と産業政策の役割」

安倍誠「韓国鉄鋼業のキャッチアップと日韓競争の行方」

具 承桓「現代自動車グループの事業システム構築プロセス」

当間正明「韓国エネルギー産業の戦略的転換『伝統的エネルギー』から

『新・再生可能エネルギー』へ」

魏 品玄「イノベーターとして生まれる：世界に衝撃を与えた韓国ゲーム産業」

呉 寅圭「K-POP の成功要因：ポスト植民地企業のグローバル戦略」

○連載

吉田満梨「エフェクチュエーションによる新市場創造（4）：『対象に価値を見いだす人々』の創出による市場機会の創造」

吉岡（小林）徹「イノベーションマネジメントの定石（9）：産学連携のマネジメント」

飯田悠司「産業変革の起業家たち（14）：成功へのショートカットは素直な学びから」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○私のこの一冊

鈴木智之「科学研究による社会問題の解決：加藤諦三『自分の構造—逃げの心理と言いわけの論理』」

○特別寄稿

野中郁次郎／野間幹晴／川田弓子「『二項動態経営』実践論」

○ビジネス・ケース

軽部大／橘樹／宮澤優輝／アヴィマニュ・ダッタ「セイコーエプソン：革新的腕時計『スプリングドライブ』はいかに開発・事業化されたか」

内田大輔／孫康勇／上杉高志／高橋裕典「味の素ファンデーション：ソーシャルビジネスで挑む子どもの栄養改善」

○マネジメント・フォーラム インタビュアー 米倉誠一郎／カン・ビョンウ

玉塚元一（株式会社ロッテホールディングス 代表取締役社長）

「日韓を掛け算してシナジーを発揮し、グローバルをめざす」

○第22回 ポーター賞 大藺恵美「ポーター賞受賞企業に学ぶ」

2. ワーキングペーパー——2022年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している（[http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did\[\]=2&cid\[\]=6&cid\[\]=7&s=dd&ppc=20](http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did[]=2&cid[]=6&cid[]=7&s=dd&ppc=20)）。

- | | |
|----------|---|
| WP#22-02 | 市川類「サステナビリティ経営（SX）とその構造に係る考察 ～イノベーションの役割とステークホルダー資本主義の未来～」2022年5月 |
| WP#22-03 | 市川類「気候変動問題対応に係るサステナビリティ経営の産業別動向分析」2022年5月 |
| WP#22-04 | 宇野舞・山下裕子「市場感知能力を基軸にした営業主導型組織の戦略的営業組織への進化—IT サービス企業の事例分析—」2022年5月 |
| WP#22-05 | 市川類「Web3に係るハイプの生成メカニズムと今後の修正の方向 ～イノベーション論から見たハイププロセスに係る新たな理論の構築～」2022年10月 |
| WP#22-06 | Kang, Byeongwoo and Rudi Bekkers, “The Determinants of Parallel Invention: Measuring the Role of Information Sharing and Personal Interaction between Inventors” November, 2022 |
| WP#23-01 | 市川類「世界の人工知能（AI）ガバナンス制度の進化メカニズム ～技術と制度の共進化の中での地域的多様性による制度イノベーションの進展～」2023年3月 |

3. ケーススタディ——2022年度

諸企業に関する最新の調査成果の外部報告を、ケーススタディとして適宜発行している ([http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did\[\]=3&cid\[\]=8&s=dd&ppc=20](http://pubs.iir.hit-u.ac.jp/ja/pdfs/index?did[]=3&cid[]=8&s=dd&ppc=20))。

CASE#22-01 尾田基「カゴメの組織変革と消費者との接触機会拡大戦略」2022年6月

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>